

---

xxxゲーム

hi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

xxxxゲーム

### 【Nコード】

N0563C

### 【作者名】

hi

### 【あらすじ】

主人公がリアルゲームに巻き込まれて行く話

## 1st game:ゲーム開始前夜(前書き)

この小説わ自分が見た夢そのものです。結構グロい(そおなる予定な)んでダメな方わ読まないほおが賢明です。

## 1st game:ゲーム開始前夜

〽 〽 〽

電話だ…

「はい。もしもし。なんの用？」

「その素っ気ないのやめろよ!!」

うちの名前わ時沢月へトキザワルナ。中学三年生。これでも一応女の子（……）  
今幼馴染みの佐野多樹へサノタキと電話中。

「じゃあなに？」多樹君になに？」って言うて出ればいいの？」

「…それも逆にやめてくれ（××）ってそんなこと言い電話したんじゃないくて、明日空いてる？」

「……空いてるよ！なんで？」

「それわ明日のお楽しみ　じゃあ明日　×に9:00で!!じゃあ  
！」

明日何があるんだろ……?? まあ暇だったし行ってみますか〃^ ^  
ノ

これからなにが起くるか月と多樹にわまだ知る由もなかった……

1st game:ゲーム開始前夜(後書き)

ノ まだまだ始まったばかりですがよろしくお願いします(〃・・)

## 2nd game：謎の人物（前書き）

評価してくれたら嬉しいです。

## 2nd game：謎の人物

翌日の朝

「……ん……えっ！！もおこんな時間！？！？」

そお言つとあたしわ急いで支度を始めた。

「お母さんなんで起こしてくれなかったのー！！」

「3回くらい起こしたよ。」

「もーいいー！！行ってきますー！！」

「ゴメンー！！待った？？」

「待った。でも時間丁度つてことで許す。行くつぜー！！」

そお言つと多樹わスタスタと歩き始めた。

「今日どこ行くの？？」

「……なんか俺の友達がこれあげるよって……」



それわとある映画の割引き券だった。

「その映画あたしがめっちゃ見たかった映画じゃん!!」  
「へだろ??? 2枚貰ったし、月、見たいって言ってた気がしたから…」

そんなこと覚えててくれたんだ…

「ありがとお」

「……」  
多樹の顔がなんか赤い…照れてる「^ ^」ノ

そうこうしているうちに映画館に着いた。  
チケットを2枚買い席に着く。

楽しみだなあ…

映画が始まったケドスクリーンわ真っ暗…

なんか変……

「なんか遅くね??」

「だよ…」

「うちらがそんな会話をしていると」

「なんか変だよね??」

「おかしくね?」

周りも異変に気付いたのかザワザワし始めた。

その時スクリーンになにかが映し出された。

>この中で割引き券を使っていない方わこの場から出でいってください。  
い。後ほどそのチケットで同じ映画を見れるよおに手配します。<  
逆らっちゃいけないと思ったのか半分くらいの人が立上がり出口の  
ほおへ向かった。

>ここに残っている皆様方をこちらに招待してさしあげましょう。<

スクリーンの人物がそお言うと

プシュー

館内にガスのよおなものが噴射された。

「ヤバいんじゃない??」

「ドア開かないぞ!!」

「こっちもだ。」

「一体なにが起こってるの!?!」

そのままみんなが眠りについた……

## 2nd game: 謎の人物（後書き）

また駄文ですいません…今後自分でもどおなっていくのかわかりませんがなにとぞよろしく願います。

### 3rd game:ゲーム開始(前書き)

やっと本題です。

### 3rd game:ゲーム開始

目が覚めたらすごい広い大広間にいた。

「どこどころだろ?」

「…なあー………月あー」多樹の声だ

「ここに居るよ」

「よかった。どっか行っちゃったのかと思った…」

「どこどこなんだろ…」

>皆様お目覚めになりましたか??<

さっきの映画館での声だ…

>これから皆さんにわゲームに参加してもらいます。<

………はあ???

いきなり何いってんだ???

>内容わ……まあ簡単に言えば命に危険のあるアドベンチャーゲーム  
ムって感じですかね・・・<

命に危険のあるって……

「命に危険のあるゲームって?？」

>言葉通りですよ。死ぬかもしれないってことです。<

「なんで俺たちが?？」

>ランダムですよ。<

大広間に沈黙の時間が流れる

>皆さん質問の方わ大丈夫でしょうか。それでわゲームの説明をします。<

そお言うと大広間にスクリーンが出てきた。

>基本二人一組で行動してもらいます。二人で協力してゲームをクリアしてください。<



スクリーンに図が現れる。

> 開始の合図とともに皆さんをバーチャル世界へ連れて行きます。  
そこでいろいろなゲームに挑戦してもらいます。ゲーム挑戦中に傷  
ついたらこちらにある本体にも傷が付きまます。ということわゲーム  
中に死んでしまったら本体のほうも死んでしまうということになります。  
<

周りがざわざわし始めた

本体が死又

誰がそんな言葉を信じることができるの??

信じられないよ……

「大丈夫だよ。心配することねえって。」

多樹の言葉わ力強かった

「ありがとお……」

> それでは皆さんにわバーチャル世界に言ってもらいましょう。必要なものわむこうで支給されます。準備わよろしいでしょうか。  
<

さっきここから出れないことわ確認したし……やるしかないね。

> それでは皆さん目を閉じてください。  
<

「頑張ろうな！」

>それでは…………ゲーム開始！！！！<

### 3 r d g a m e : ゲ ー ム 開 始 ( 後 書 き )

読んでくれた人わ評価してくれたら嬉しいです。

# 4th game: first game (前書き)

更新遅れてすいません;;

4th game: first game

>ゲーム開始!!<

合図と共にどこからか光が差してきた

目が覚めたら森の中にいた

「月、大丈夫か？」  
「うん。」

>皆さんお目覚めですか？<

今度わ誰だろ??

>ここからわ私がご案内致します。私は如月<sup>キサラギ</sup>と申します。<

如月さんと名乗る男の人わ全身黒のスーツで統一されていて細身で背が高く、

不思議な雰囲気か漂った人…

まあ一言で言えば学校にいればいつも周りに女子がいるよ…な人。

でもうちわ正直そんなにカッコいいとわ思えない…

そんなことを考えてると如月さんが喋り出した。

>皆様にわこれからこのジャングルでゲームに参加していただきま  
す…<

まず2人組になった。  
もちろんうちわ多樹と。

説明の内容を大まかに書くと

設定としてわ、  
このジャングルわあくまでもバーチャル世界だから変な怪物とか出てくるみたい…

ゲームがクリア出来なかったら現実世界に連れ戻されてペアの人との記憶なくなるらしい。

あと、もし現実世界で”死”に値するよゝな出来ごとがゲームの途中で起こったらその被害者わ現実世界でも死んでしまうらしい…

その話を聞いた途端みんなが騒ぎ出した。



>…それではfirst gameの説明を…<

みんなが一斉に静まった

>森の中央に神殿があります。first gameはその神殿まで行つて番号付の鍵を取ってきてください。番号わこれからお渡しする地図に記入してあります。それを本日 of 23:59までに地図の赤いx印のところまで持ってきてください。ちなみに現在時刻わ16:20です。

<

その言葉と同時に地図と時計が配られる

現在地わ森の端っこ。中央までわ結構あるけど…

1秒でも過ぎちゃったら駄目なのかな??

思つてたことを代弁するかのよおに多樹が言つた。

「59分を1秒でも過ぎると駄目なんですか??」

>いいえ。そこまでケチじゃないです。59秒まで待ってさしあげ  
ましょう。  
<

ケチとかそーゆー問題じゃないんだけど…まあいつか

>他に質問わございますでしょうか?<

数秒の沈黙・・・

>それでは只今よりfirst gameスタートです!!<



4th game: first game (後書き)

今後のため、コメントを頂けると嬉しいです。

## 5th game: 驚愕の事実(前書き)

しばらくぶりです。なかなか更新できなくてすいませんでした。みなさんからのコメントを参考に少し書き方を変えてみました。

## 5th game: 驚愕の事実

>first game スタートです!!<

そんな如月さんの合図とともに最初のゲームが始まった

とりあえず私達は団体行動をとることにした

そのほおが安全だし

私達が二列横隊で森の中を進んでいると……

「…!!?!?!? うわああ!!!!」

いきなり先頭のほおから叫び声が聞こえてきた

へなにが起きたんだ!?

ゝ

急いで先頭に行ってみると……………

なんだか異臭がして……

下を見ると……………

人のものだと思われる手や足がそこら中に落ちている

先頭の人たちのものなんだろう……

私は怯えていた

周りのみんなも恐怖のあまり立ち尽くしていた

「なんだよ・・・これ・・・」

そこらへんに死体がころがっている・・・

それわ信じられない光景だった・・・

「酷い…」

「俺達こんなになっちまうのかよ…」

ひとりあえず先進んでみないか？

そつだ…今はこんなとこで立ち止まってる時間なんかないんだ…



「そっだよみんな!!今は先に進んでこのゲームをクリアしなきゃ  
!!!」

「そっだよな…」

「やるしかないもんね…!」

そんなこんなでみんな無事にクリアすることができました。

ホテルでは如月さんが出迎えてくれましたが…

「お前!!なにが起こったかわかってんだろっな!?!」

>まあそっ怒らないでくださいよ。  
<

「目の前で人があんなことになってて…怒んのもむりねえだろうが  
!-!」

>でも最初に死ぬかもって言いませんでしたっけ？<

「っ……………」

>さあみなさん。御食事の時間です。食堂に御集まりください。食  
事の後第2ゲームの説明を致します。<

明日は第2ゲーム……

また今日みたいなことがあるかもしれない……………  
でもやるしかないんだ。

## 5th game: 驚愕の事実（後書き）

今後注意したほうがよいことなどありましたら是非コメントのほう  
よろしく願います。

# 6th game: Final Game - 序章 - (前書き)

長いこと更新しなくてすいませんm┐┐m

## 6th game: Final Game - 序章 -

夜が明けて二日目の朝

昨日の恐怖が頭から離れない・・・

「おはようございます。」

「あっ、おはようございます。」

「二日目ですね。」

「そうですね。」

そんな会話が続いてると

>皆様、朝食の準備が整いました。お集まりください。<

如月さんからの放送が流れた。

>えー、皆さんお集まり頂けたでしょうか。<

>それではお話致します。昨日も申し上げました通り、今回は男女に分かれて参加して頂こうと思います。<

そう・・・昨日も言われた。

男女で別々のゲームをするって。

>内容はゲームのスタート地点に着いてからお話したいと思います。  
さあ、朝食の準備が整ったようなので、食事に致しましょう。<

朝ご飯は普通だった。

その普通さが逆に怖いくらい・・・

朝ご飯を食べ終えたうちらは  
指定された場所に移動した。

>皆様おそろいでしょうか??<

>それではここからは男女別で行動して頂きます。<

そうしてうちらは別々の道を行った。

そしてうちら(女)は  
森の中にある小屋らしきところに連れてこられた。

>女性の方々はこれからある一連のストーリーの主人公となってい  
たきます。<

一瞬言っている意味がわからなかった。

>つまりRRPGリアル・ロールプレイング・ゲームをして頂きたいのです。<

まだどういう意味かわからなかったが  
そんなことを考えている暇など与えることなく  
如月さんの話は先へ進む。

> いまから渡す紙にストーリーの概要が途中まで書かれています。  
そのストーリーの続きを自分達で作り上げてください。 <

一枚の小さな紙が配られた。

そこには

『遠く離れた孤島にさらわれてしまった仲間を連れ戻す為、少女は』  
と書かれていた。

> そこに書かれている『仲間』とは先程まで一緒だったパートナー  
のことです。 <

「

「!?!?!」

信じられない・・・



> パートナーを助けられるリミットは五日後の19:00までです。  
このゲームが最終ゲームなので頑張ってください。それでは。<

そう言って如月さんはどこかへ行ってしまった。

これがうちの地獄のファイナルゲームの始まりだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0563c/>

---

xxxゲーム

2010年10月14日01時40分発行